

## [施業研究室]主要樹種の材積表ならびに収穫表の調整に関する研究

青木, 尊重  
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

柿原, 道喜  
九州大学農学部附属演習林 : 助手

<https://doi.org/10.15017/1456098>

---

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和37年度, pp.3-5, 1963. 九州大学農学部附属演習林  
バージョン :  
権利関係 :

ので省略する。

その他の各試験については、目下継続中であつて成果をみるに  
致っていない。

- 1) 研究部 昭和35年度研究経過報告 演習林 /31号
- 2) 研究部 昭和36年度研究経過報告 演習林 /43号
- 3) 青木尊重他 竹林の合理的施業に関する研究第Ⅲ報  
日林会九支講集第16号
- 4) 青木尊重他 竹林の合理的施業に関する研究 第Ⅳ報  
第13回日林講集
- 5) 柿原道喜 乱塊法によるヒノキの枝打試験、第1報  
九大演集 第18号

## 主要樹種の材積表ならびに収穫表の調製に関する研究

担当者 青木 尊重、柿原道喜

### I. 目 的

演習林産の主要樹種の材積表ならびに収穫表を調製し、研究ならびに事業上の基礎資料とする。

### II. 方 法

材積表の調製：これまでに演習林ならびに教室関係者によつてなされた樹幹析解木の資料を収集・整理するとともに、今後、研究ならびに実習等にあたつて樹幹析解が行なわれたさいはその資料をとりそろえておき、樹種別に必要な資料数が集まれば調製する。

収穫表の調整：樹種別に調製する予定であるが、現在のところ

は粕屋演習林の主要造林樹種であるヒノキならびに宮崎演習林の造林樹種として注目されているカラマツに力を注ぐことにした。また、これまでの収穫表は材積収穫表のみであったが、近年木材の工業系原料材としての需要増大に伴ない、木材の真の生産物である繊維素、リグニン等の木材物質の真の生産量を把握するため、林地の重量生産量、カロリー生産量を知る必要性が認められているので、重量収穫表、カロリー収穫表も同時に調製することとした。

### III. 経 過

材積表の調製：目下資料の収集中であつて調製の段階にいたっていない。

収穫表の調製：ヒノキについては、材積収穫表調製のために必要な標準地を、粕屋演習林内より34箇所、近接民有林より8箇所、計42箇所選び調査した。目下計算中であつて結果を出すまでにはいたっていない。また重量収穫表、カロリー収穫表調製のために必要な標本木を10本採取したが、いまだ実験にとりかゝるまでにいたっていない。

カラマツについては、九州地方の国有、民有カラマツ林より資料を得て比重測定の実験を行ない、重量収穫表を調製した。また、カロリー測定実験のために必要な試料の作製を行なつた。

### IV. 成 果

カラマツについては、重量平均成長量最大の時期が、材積平均成長量最大の時期より数年おくれることを認めた。

### V. 今後の見越し

材積表の調製：資料が集まり次第計算にとりかゝる予定である。

収穫表の調製：ヒノキについては、まず材積収穫表の完成に、

カラマツについてはカロリー収穫量の調製に力を注ぐ予定である。

## 山岳地更新試験 — 宮崎演習林 —

担当者 青木 尊重 宮崎 安貞  
柿原 道喜 荒武 時雄

### I. 目 的

近年、用材の需要増大、森林資源の不足から、立地条件の悪い奥地林の開発がすすめられており、その結果、伐跡地の更新法が大きな問題としてとりあげられている。九州大学宮崎演習林においても、大篠林道の開設により大篠団地の開発が軌道にのりはじめられており、奥地天然林の更新方法が近い将来問題点としてクローズ・アップされてくることが予想される。そこでその準備段階として、天然林の更新方法に関する各種の試験を実施しておくことは、当面の問題としてきわめて重要であると考えられる。このような観点から、まず第ノ段階として矢立団地4林班の天然林を対象に、更新方法に関する試験地を設定した。

### II. 方 法

天然林の開発にあたっては、まず、伐採方法、すなわち、皆伐作業をとるべきか、択伐作業にすべきか、問題になり、また伐採跡地の造林樹種の選定も重要課題であり、これらの問題を地形、林相、標高別に検討されねばならない。そこで、天然林の作業方法として次の3種をとりあげ、この3作業法間の優劣の比較を標高別(1,000 m, 1,150 m, 1,300 m)に検討することとした。

#### 作業方法

1) 皆伐作業：天然林を皆伐して針葉樹人工林に転換する。